

## 就学前教育と小学校教育との円滑な接続

就学前教育と小学校教育との円滑な接続のためには、育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに、子どもの育ちや学び、保育者の指導の過程を小学校教員と共有し、幼児期から児童期への育ちや学びを理解することが大切です。また、互恵性のある交流活動や相互参観などを通して、連携を継続させていくことも必要です。

### 1 円滑な接続に向けた連携の継続

#### 互恵性のある交流活動の実施

交流活動のねらいや内容を検討し、実施後は評価を行いましょう。

- 例
- ・ サツマイモ等の栽培を通じた交流
  - ・ クラブ活動を活用した交流
  - ・ 入学後の1年生と6年生の関係につなげる、5歳児と5年生の交流等

#### 相互参観と研究協議等の活用

相互参観を通して互いの教育の特徴をつかみましょ。その上で、参観後は研究協議に参加するなど、教育内容や指導方法について理解を深め、保育や教育に生かしましょう。

- 例
- ・ 協議での積極的な意見交流を通じた、参加者同士の学び合い

#### 連携の継続を目指す取組

連携に向けた組織の構築を図り、互恵性のあるつながりを継続させましょう。

- 例
- ・ 連携に向けた組織づくり（管理職、教務主任、研究主任、養護教諭、特別支援教育コーディネーター、担任等）
  - ・ 互恵性のあるつながりを継続させるための年間計画作成と実践、改善

協議した例

### 2 子どもの姿から読み取れる育ちや学びと小学校生活とのつながり

例 こま遊びのエピソードを基に、子どもの姿から育ちや学びを読み取り、小学校生活とのつながりについて保育者と小学校教員とで話し合いました。話し合ったことは、①子どもの姿 ②子どもの姿から読み取った育ちや学び③小学校生活とのつながりの3点にまとめました。

#### Point

具体的に見られる「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を生かして、保育者から小学校教員に子どもの成長や保育者の働き掛けの意図を伝えることが大切です。

こまをうまく回したいと思い練習しているAさんは、友達がこまにひもを巻く様子を見たり友達からうまく回す方法を聞いたりして、考え工夫して何度も取り組んだ。

また、保育者や友達からの応援や頑張りを認められることを支えにして、できるまで続けることにより達成感を味わう姿が見られた。

Aさんはそこで得た自信を基に大きな板で坂道を作って回しながら滑らせるなど、更に自分で課題を設定し、もっと難しいことに挑戦していった。

【出典】幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領各解説

園の先生に頼らず、自分で考え工夫しながら取り組んだのですね。

自分の力で諦めずにやり遂げたことがAさんの貴重な経験になりました。

やり遂げた自信が、新しい考えを生み出す意欲につながっていますね。

自分の力でできたときの充実感や満足感を味わえるように、励ましながら見守っていました。

このような経験が大きな自信となり粘り強さが身に付きます。先生や友達との温かな人間関係もうかがえ、クラス経営の充実を感じます。子どもの発達を支えるためにクラス経営が重要であることは共通していますね。

知識や技能を得て、新たな学びに向かっていく様子が分かります。

主体的に物事に取り組む態度は、このようにして育まれていくのですね。

小学校でも好奇心や探究心をもって、自ら進んで様々なことに取り組んでほしいと願っています。

- ① 工夫を重ねながら練習に取り組む姿
- ② 健康な心と体、探究心
- ③ 学び合いの基礎、主体的に問題を解決する態度等

- ① できるまで取り組み、達成感を味わう姿
- ② 自立心、感謝の気持ち
- ③ できることは自分でしようとする意欲、粘り強さ等

- ① 遊びを発展させ、難しいことに挑戦する姿
- ② 思考力の芽生え、試行錯誤
- ③ 創造的な思考の基礎、自ら課題を設定する力等

小学校の先生と話し合うことで、園で育まれた資質・能力が小学校生活でどのように発揮されているかが②と③の関連から分かりました。



園の先生と育ちや学びを読み取ると①から③までの関連がよく分かります。園での遊びが、小学校以降の生活や学習の基盤となっているのですね。